

陸軍部

第一課

昭和四年七月七日 接受

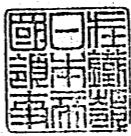
BI

機密第五〇八號

昭和四年十一月廿九日

在鐵嶺

領事 近 藤 信 一



外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

附屬地及商埠地^{境界}地圖作製ニ關スル件

本件ニ關シ管内開原警察署長ヨリ左記ノ如ク報告アリタルニ付御參
考迄報告ス

記

6129.963

S 1.4.4.0-2

179

昨日來開シタル遼寧省城總商會々員王子敬ノ語ル處ニ據レハ省交渉總
署ハ去ル二十三日國民政府外交部ヨリ從來交渉事件ニ際シ遼寧省下各
商埠地及各附屬地ノ地圖ニ精密ナルモノヲ缺ク爲頗ル不便ヲ生セリ依
テ至急境界隣接地ヲ明細ニセル地圖ヲ作製シ送付スヘシトノ通令ニ接
シ二十四日協議會ヲ開キタル結果調査員若干名ヲ各附屬地及商埠地ニ
派シ實地調査ヲ行フコトトナレリト言フ彼等ノ行動ニ關シテハ注意視
察中ナルモ御參考迄

本信寫送附先 北平、奉天、遼陽、牛莊、安東、新民府

S 1.4.4.0-2

180

REEL No. A-0465

0148

アジア歴史資料センター

亞細亞局第二

亞細亞局

第一課甲

昭和四年三月拾日接奉

機密第五二五號

昭和四年十二月七日

在鐵嶺

領事

近

藤

信

一

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

支那官憲ノ滿鐵沿線境界標調査ノ件

本件ニ關シ當館開原警察署長ヨリ左記ノ通り報告アリタルニ付御參考迄報告ス

記

612.014811



藤原

大久保

小孫家臺第四公安分局長ノ語ル處ニ據レハ最近開原縣政府ハ省政府ヨリ南滿鐵道沿線ノ部民ニシテ滿鐵ヨリ買收セラレ境界標ヲ二丈餘モ移轉セシメ居ルモノアリトテ之カ調査方ノ通令ヲ受ケ關係各區ニ實査方轉命シ來タルヲ以テ周分局長ハ數日前實地踏査ニ向ヒタル趣ナルモ調査ノ結果ニ關シテハ言明ヲ避ケ居レリ尙支那官憲ノ行動ニ關シテハ注意視察中ナルモ右御參考迄

本信寫送附先 北平、奉天、長春、遼陽、牛莊、安東

15

機密第七一號

昭和五年三月七日

在牛莊

領事 荒川 充

雄

外務大臣 野村 浩平 原 喜重 郎 殿

亞細亞局第二課

支那側ノ新租地内土地内査ニ関スル件

遼寧省政府ヨリ最近當地市政籌備處
及營口縣政府ニ對シ左記ノ訓令ヲ及ビタル
趣キ

記

遼寧省内懷德、本溪、及營口ノ各縣内ニ於テ

在牛莊日本領事館

ル日本側租界面積中不法ニ占有シ居ル
土地ノ面積ヲ内査報告ス（キ）方國民政
府ヨリ通令ノ次第モアリタルニ付テハ當該各
縣長ニ於テハ至急内査ノ上報告スヘシ
本件ニ関シテハ三月七日附亞ニ機密函台第
一四七號御訓令ノ次第モアルニ付關係右方
面ニ注意申ナリ

右報告ス

記録簿
昭和五年三月拾貳日接受

満

機密

昭和五年三月拾貳日接受

S 1.4.4.0-2

184

S 1.4.4.0-2

183

亞細亞局

第一課甲

昭和五年六月十七日

機密第一九八號

昭和五年六月十二日

在鐵嶺

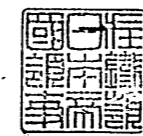
領事 近 藤 信

外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

支那側ノ附屬地境界及軍隊演習ニ關スル調査ノ件
(開原警察情報)

開原縣政府ハ數日前遼寧省政府ヨリ左記事項ヲ調査報告方ノ命令ニ
接シ縣公安局ヲシテ之カ調査ニ着手セシメタリト

記



附屬地

一、附屬地境界ノ地圖ヲ作製シ境界標識ヲ示スコト

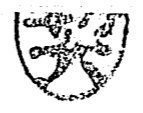
一、山河ノ形態移動ニ依リ日本側カ侵入シ居ラサルヤ若シ其疑アラハ詳細ノ地圖ト寫眞トヲ撮影スルコト

一、日本軍隊ノ常ニ演習スル地帯ニ於テハ演習ニ依リ作物ニ被害ナキヤ

一、日本軍隊カ演習ニ際シ住民ヲ恐怖セシムルカ如キ行動ナキヤ

此段報告ス

本信寫送附先 奉天、長春、遼陽、安東 各公館長



昭和五年六月十四日

亞細亞局

機密第二三四號

昭和五年六月十四日

在安東

領事 森岡正平



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

支那官憲、安東附屬地、状況調査報告

附スル件

本件ニ関シ警察察謀報ニ依リハ安東縣長ハ六月二十五日附公文ヲ以テ遼寧省政府主席ニ對シ安東附屬地ノ状況ニ関シ別紙譯文、如キ調査報告書ヲ提出シテ、以テ趣ナルカ右ハ年佐美領事發給シテ本年三月二十日

在安東日本領事館

附三月二十日附機密第九九號公信報告事項ト關聯シ居ルモノト認メラルルニ付為念報告ス

本信寫送付先

在支公使、北平、奉天、長春、鐵嶺、牛莊、遼陽

記録件名

第二課

昭和五年六月拾九日發



警察密報

本年三月十二日附ヲ以テ貴政府ヨリ日本側ノ台用セル附屬地内ノ面積及鐵道沿線地帯ノ面積其他ノ設備等詳細調査ノ上報告スヘシ云々ヲ奉セシニ依リ職ニ於テハ適任者三名ヲ派遣シテ實地ニ就キ秘密調査ヲ遂ケシノタルヲ以テ說明表冊相添ヘ復命致シ候條何卒参考ニ資セシレ度奉願上候 謹呈

記

安東日本附屬地内ハ普通新市街ト稱シ總テノ町名尤ノ如シ

(丑) (有 四答)

(寅) 查スルニ明治三十七年即チ前清光緒三十年、春

日本ハ露國ト朝鮮人ノ統治權爭奪ニ依リ遂ニ開

在安東日本領事館

戦スルニ至リ安東縣東北九連城、虎山、大王套、三道灣等ニ於テ露國ヲ撃破シ陽曆五月一日日本ハ安東縣管内ニ於ケル露軍建設ノ各軍事設備箇所ヲ完全ニ台領シ且九連城ハ日本軍ハ重大激烈砲火ヲ以テ攻撃シタルモノニシテ其際露軍ノ指揮官コシガアル大將ハ戦死シタル為露軍ハ統帥者ナク全軍潰走シタルモノナリ

(卯) 明治三十七年五月一日日本軍安東台領ノ際ハ安東縣

市後家寶街東益昌商店内ニ軍政署ヲ設置シ將校大原某ヲシテ軍政司令官トシ其他ノ將校條元モ亦市内興隆街共盛油房内ニアリテ第一軍憲兵司令部ヲ設立シ其他輸送司令部兵站司令部各種司令部及輕便鐵道ヲ修築セリ

(辰) 日本軍ハ戦争ノ際金融ノ利便ノ目的ヲ以テ一種ノ軍用
 票ヲ發行シ其種別ハ銀本位ノ十銭二十銭五十銭一
 圓五圓十圓ノ六種トシ此種軍用票ノ發行ト同時ニ到
 ル處兌換所ヲ附設セルカ其兌換銀ハ日本銀ニ非ス一種ノ
 「ナギレ」銀ナリ該銀ハ普通銀貨ニ比シ而元ニ付八九元
 ノ安候ナリ此ヲ以テスルモ當時日本ノ國勢ハ異常ニ逼迫
 シ「ナギレ」ニ對シ借款セシモノナリシハ明カナルコトナリ
 日本軍ハ各處ニ軍票ヲ以テ現銀ニ兌換セリト雖モ固
 ヲリ軍票ノ信用ヲ證セルモノニシテ其軍票ノ廣大ナル
 ルニ及ヒ兌換ノ制限ヲ加ヘ露國ニ戰勝セシ餘威ニ依リ
 我國ノ官憲ニ迫リテ商民ニ對シ其流通兌換停止方
 ヲ佈告セルカ其後日本人我國ノ山東膠濟鐵道ヲ橫占
 レテヨリ其汽車賃ヲ銀幣ニテ收入スルコトナレルヲ以
 テ始メテ日本人ニ回收セラレタリ

在安東日本領事館

(己) 明治三十八年春季日本軍政署司令官大原ハ遂ニ我
 安東縣政府本館ヲ台據セリ當時所屬地内ハ原地主
 王某郭某姓大多數ヲ台ノ洪達高李姓等之ニ以
 キ各地主ハ其所有權ノ喪失ニ關シ極力抗爭セシ
 毛遂ニ日本軍ノ武力壓迫ヲ受ケ如何共致ス能ハ
 ス皆日本軍ニ横領セラレタリ

(午) 日本軍政署ノ強迫シテ所屬地ニ割據セシ際安奉
 鐵道ハ尙ホ未ダ修築ノ儀纏ラサリシニ大日本軍
 用地ノ名義ヲ以テ割奪シ今日ニ至ルモ大日本軍
 用地ノ名義ヲ註セル石標ヲ樹立セリ當時ノ總面積ハ一
 百六十九万三千四百十六坪ナリ

(未) 其後日本人ハ安東軍用鐵道ヲ修築シ糧食ヲ運搬

スル者ナリトノ口實ヲ以テセルモ我國ハ主権ノ關係上
終始之ヲ許可セザリシモ日本軍ハ終ニ陸軍一師團
ノ兵ヲ鐵道隊ト改稱シ武力ヲ以テ強迫シ軍人ヲ
以テ工夫トナシ強行修築ヲナセリ然レテ日本軍
ノ修築當時ハ確ニ臨時軍用鐵道ニシテ決シテ
普通廣軌鐵道ニアラス又山嶺モ盤旋經由シテ
更ニ隧道ハ十カリナリ其後明治三十九年日露
和議告成後該鐵道ハ一躍商業ニ變シテ旅客
貨物ノ運送ヲナシ明治四十一年日本ハ露國ヨリ
割讓セル奉天長春大連間ノ鐵道ヲ南滿鐵道
ト稱シ又安奉線モ其中ニ包含シテ廣軌ニ改メ隧道
ヲ修築シ明治四十四年始メテ完全ニ廣軌開通シ以テ
今日ニ至レリ

在安東日本領事館

(申)明治四十一年日本ハ安東ニ領事館ヲ設立シ數年
察四省ヲ附設セリ此レモ亦五月中ニ安東行セシコトナ
リ同年月安東軍政署ヲ撤廢シ附屬地ニハ新ニ市街
ヲ開設シテ總テ我國市街ニアリシ各種ノ軍政官署
ハ皆附屬地ニ移轉セリ此時附屬地名ハ市場ト稱シ
尚新市街ト稱セリ此レ日本ハ安東附屬地ヲ依據セ
シ經過ノ大略ニシテ日本ハ所有行政権ハ皆日本
警察署ノ管理ニ歸シタルモノニシテ戰時ニ於ケ
ル憲兵ノ代行セシ行政権ハ此ニ至リテ中止セラレリ
(南)其後南滿洲鐵道株式會社ハ民國十二年ノ頃南滿
沿線一帶ノ地方ヲ完全ニ引キ受ケ終テ之ヲ附屬地ト
稱セリ然レテ南滿沿線一帶附屬地内ノ設置ハ全部
南滿鐵道會社ノ經營ニ歸シ安東附屬地内ノ電燈

查スルニ大原軍政司令官時代強迫買収ノ際ハ日本
 坪一百六十九万三千四百十六坪(營造尺ヲ以テ一坪六尺
 ニテ計算シ四百坪ヲ以テ四百八十弓トシテ一畝ニ計算
 シ合計五十畝トス)陸軍用地ハ民國十二年南滿鐵
 道株式會社ノ經營ニ屬セシ以來總數三百十九万
 八千九百九十八坪トシ夏ニ四百坪ヲ以テ一畝ニ換算ス
 ル時ハ九千〇〇三畝餘ニ達シ尚鎮江山公園山場及
 其後侵畧セシ者ヲ調査スルニ一百三十万坪ノ多キニ
 達シ^{尚四倍}日本附屬地ハ強制買収ト侵畧地ト
 ノ多キニ達シ日本附屬地ハ強制買収ト侵畧地ト
 ヲ合算スル時ハ一万二千四百方畝ニ達ス然レテ鐵道
 沿線ハ從來ノ境界石ヲ從ヒ侵畧セシ形蹟ナシ其他
 縣西北五龍背ニハ天然ノ温泉アリテ日本人經營ス
 在安東日本領事館
 ト雖モ然モ民間ニ於ケル一種ノ租借ノ性質ニシテ侵
 畧ノ事實實ナキモ該温泉ハ一時ニ之ヲ回收スルコトハ
 至難ナルノミ
 (庚) 附屬地内日本人ノ官公團體所在地尤ノ如シ
 (有略)

電信寫



昭和5一〇五八〇 暗

本省 鐵嶺

七月十六日後着

人

幣原外務大臣

近藤領事

第一二號

滿鐵ヨリ昌圖附屬地境界ヲ測量スルニ付日支官憲ノ立會ヲ要望シ來
レルニ付之ヲ承諾シ支那側ノ派遣員ト共ニ當館ヨリ棚平書記生ヲ往
復二日ノ豫定ヲ以テ昌圖へ出張セシメ度ニ付至急御認可アリメシ

附屬地

・ S 1.4.4.0 - 2 199

REEL No. A-0465

0:58

アジア歴史資料センター

滿鐵

南滿洲鐵道附屬地境界問題

第一課

昭和五年十月十五日

機密第三八七號

昭和五年十月十五日

在 鐵 嶺

領事館事務代理 石 塚 邦 器



外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

鐵道附屬地境界問題ニ關スル件

鐵嶺驛北方鐵嶺西關ヨリ馬峰溝ニ至ル道路ニ當ル第一鐵道橋梁兩側ノ南滿鐵道用地内ニ大正十二年頃ヨリ支那人カ滿鐵ノ許可ヲモ受ケス何時トモナク家屋ヲ建設シ商賣ヲ營ミ居リタルカ當時該土

1.4.4.0-2 200

地ハ滿鐵側ニ於テモ差當リ必要ナカリシ爲之ヲ默過シ居リタル處大正十三年四月ニ至リ滿鐵カ鐵嶺、鐵嶺川間ニ複線土工々事ヲ起ス爲土取場トシテ該地ヲ必要トスルニ至リ右土地内居住者ノ立退ヲ要求セルヨリ支那側トノ間ニ種々交渉ヲ生シタル次第ハ前任田中領事發閣下宛大正十四年十一月三日附機密第八二號「附屬地境界問題續發ノ件」ヲ以テ報告シ置キタル處本件ハ其後何等徹底的解決ヲ見ス今日ニ及ヘリ偶々客年六月二十五日前任近藤領事、藻寄滿鐵地方事務所長ハ黃鐵嶺縣知事史鐵嶺交涉局長等立會ノ下ニ實地踏査ヲ行ヒタルカ其結果馬峰溝街道鐵道陸橋附近及北五條通大手町入口附近ノ一部居住者ニ對シテ從來附屬地居住者トシテノ取扱洩アルコトヲ發見シタルヲ以テ其後ハ之ヲ附屬地居住者トシテ取扱フコトトセリ

1.4.4.0-2 201

REEL No. A-0465

アジア歴史資料センター

然ルニ支那側ニ於テハ同地ハ全然附屬地外ナリト主張シ同地居住支那人ハ地券ヲ所持シ居ル旨ヲ力説シ課税其他ノ管理ニ關シ同年八月七日附ヲ以テ鐵嶺交渉局ヨリ公文ヲ以テ當館ニ抗議シ來リ爾來戸口調査、門牌貼附、税金徵集等ニ付屢々交渉ヲ續ケ來リタル處元來該境界線ハ極メテ明確ナル標石アリ附屬地内ナルコト疑ヲ容レス殊ニ馬峰溝街道附近ハ鐵道用地トシテ家屋ノ建築ヲ許ササル地域内ナルヲ以テ本年四月二十六日滿鐵側ノ山下保線區長ハ當館阿部警部補立會ノ下ニ同地居住者陳盛等ノ宅ニ臨ミ本年舊曆八月十五日(新曆十月六日)ヲ限リ同地ヨリ退去方ヲ諭示シ尙此際本問題解決促進ノ一策トシテ同地域内居住者十二戸並ニ其家主ヲ客月二十七日當館警察署ニ呼出シ家屋撤去方ヲ命シタルニ支那側ニ於テハ我警察カ各種徵稅票等ヲ證憑物件トシテ

押收シタルヲ以テ我カ抗議ヲ恐レタルカ九月三十日黃鐵嶺縣知事ハ史交渉局長ヲ帶同本官ヲ訪問シ同地域カ附屬地ナルコトヲ認ムルト共ニ今後同地域居住者ニ對シ課稅徵收等ノコトナカルヘキ旨ヲ聲明シ家屋ノ撤去ハ猶豫セラレ度旨口頭ヲ以テ願出テタルニ依リ此ニ對シ本官ハ滿鐵側ニ於テモ從來該地域ヲ支那側ノ管理ニ放任シ置キタル手落アリタルニ願ミ此際斷乎タル措置ニ出テサラシムル様滿鐵側ニ考慮ヲ促スヘキ旨ヲ約シ一方滿鐵側ト協議シ滿鐵側ヲシテ家屋所有者ヨリ左記條件具備セル證書ヲ取ラシメ且ツ轉貸買賣ヲ許ササル條件ヲ附シ一時猶豫セシムルコトニ決定シタリ

記

一、即時撤退ヲ要求スヘキモノナレトモ準備ノ都合ヲ考慮シ二項以下ノ

處置ヲ講ス

- 二、會社線路用地貸付規定ニ準シ有賃貸付ス
- 三、貸付料金ハ從來ノ最高額（一戸一ヶ月現洋十六元）ニ準シ査定ス
- 四、立退年限ハ昭和六年舊八月十五日限リトス
- 五、家屋撤去後ハ殘存物ヲ各家主ニ於テ整理シ地表面ヲ切均スヘシ

以上

查スルニ鐵道西馬峰溝街道以南ノ地域ハ大正七年頃ヨリ其隣接地所有者遼河西居住支那人金某（現在住所不明）ナル者カ自己ノ所有地ナリト僞稱シ同地域内ニ建築シタル家屋ニ對シ地代ヲ徵シ居タルカ大正十四年頃鐵道西興隆街居住煎餅屋鄒廣順外五名ノ組合タル公積堂ニ賣渡シ今日ニ及ヘルモノニシテ現在ニ於テモ公積堂（鄒廣順）

S 1.4.4.0-2

204

ハ家屋地代トシテ同地域居住者六戸ヨリ毎年四十四元ヲ徵收シツツアリ

然ルニ右協議ニ基キ山下保線區長關村技術員等ハ本月六日現地ニ臨ミ一部家主ニ對シ土地貸下申込書ヲ徵シ殘リノ家主ニ對シテモ近日中保線事務所ニ出頭同様ノ手續ヲ取ル様指示スル所アリタル趣ナリ之ヲ目撃シタル前記僞稱地主鄒廣順ハ滿鐵カ該地域ヲ滿鐵用地トシテ地代ヲ徵スルニ於テハ自己ノ收入ヲ失フ虞アルヲ以テ各家主ヲ語ヒ同日縣政府ニ出頭嚴重交渉方ヲ願出テタルモノノ如ク黃縣知事ハ史交渉局長ヲ同伴シ翌七日日本官ヲ訪レ右山下ノ徵シタル契約書ノ返還方ヲ要求シ且ツ一ヶ年ノ期間ハ從來繼續シ來リタル支那居住者ノ營業ヲ阻害スルモノナリト主張シ竟ニハ該地域カ果シテ滿鐵ノ土地

S 1.4.4.0-2

205

ナリヤ否ヤモ不明ナルニ滿鐵カスカル契約書ヲ作成セシムルハ不當
ナリトテ前言ヲ疑シ恬トシテ恥チス於是本官ハ貴官ハ前日來訪ノ節
該地域カ滿鐵用地ナルヲ認メナカラ今日突然斯ル言ヲ弄スルハ矛盾
モ甚シト應酬シタルニ對シ同道シタル交渉局長ハ黃知事ノ意嚮ハ元
來斯ル根本問題ヲ解決センカ爲ニ來レルニアラス唯當面ノ問題タル
支那人家屋ノ撤去方ニ關シ居住支那人等ノ安心ノ行ク様妥當ナル辦
法ヲ商議セムカ爲ナリ就テハ貴官ヨリ滿鐵側ニ對シ契約書ニ捺印セ
シムルコトヲ向フ一ヶ月間中止セシメ其間ニ於テ雙方歩ミ寄り解決
方法ヲ講シ度旨提言セリ然ルニ同日後刻ニ至リ滿鐵ハ前記ノ通り該
地域居住者ヨリ土地貸下申込書ヲ徴シタル旨通知越シタルニ付テハ
本官トシテハ滿鐵側ノ主張ヲ極力支持スル積ナルモ相當迂餘曲折ヲ

免レサルヘント思考ス
右報告ス
本信寫送附先 奉天總領事



重閣臣局
機密 第 五二一 號

昭和 五年 十二月 三日

在鐵嶺

領事館事務代理 石塚 邦 器

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

昭和 五年 十二月 三日 附 奉天總領事宛機密
第 三 五 一 號 寫 送 付

件 名

一 滿鐵附屬地境界問題ニ關スル件

一 昭和五年十二月八日 接
別紙添附

林

滿鐵附屬地境界問題

S 1.4.4.0 - 2 208



機密第三五一號

昭和五年十二月三日

別紙添附

在鐵嶺

領事館事務代理 石塚 邦 器

在奉天

總領事 林 久 治 郎 殿

滿鐵附屬地境界問題ニ關スル件

本件ニ關シ十一月十日附合機密領第二四八號實信ヲ以テ御照會ノ
次第敬承、委細別紙ノ通回答申進ス

本信寫送附先 外務大臣

S 1.4.4.0 - 2 209

滿鐵附屬地境界問題

一 附屬地境界ニ關スル係争ノ経緯又ハ紛議ヲ生スヘキ理由
鐵道關係ノ土地ハ元來舊露國政府ヨリ滿鐵會社カ繼承シタルモノナルコトハ言ヲ俟タサル次第ナル處之ニ關シ支那側ヲシテ首肯セシムルニ足ル書類又ハ證據往々ニシテ缺如スルモノアリ又滿鐵カ境界標石トシテ建設シタル者モ舊露國ヨリ繼承當時ニ設立シタルモノニアラス大正五六年頃ノ實測ニ基キタルモノニテ支那側ニ於テハ之ヲ承認セス且滿鐵ハ多年自己所屬ノ土地ノ管理ヲ等閑ニ附シ支那官憲ノ課税・農民ノ耕作等ニ對シテモ之ヲ阻止セスシテ放任シ置キタル關係上目下係争地トナレル土地ハ支那官憲ノ行政下ニ在リ又耕地家屋等モ支那人間ニ相互買賣セラレ現占有者ハ前占

二 係争中ノ境界ノ現狀

(イ) 後八里庄(附屬地南邊)問題

大正十四年六月當地滿鐵地方事務所ハ附屬地南邊八里庄地方ニ從來恰モ境界ノ如ク認メラレタル舊排水溝ヲ越エテ境界石(本

有者ヨリノ買賣契約書ニ據リテ其私有權ヲ主張スル等ノ狀態ヲ馴致シ東鐵側ハ是ノ因襲的占有ノ事實ニ基キテ滿鐵側ノ主張ヲ認めサル情勢ニ在リ加フルニ目下利權回收ニ汲々タル東鐵側ノ態度ヨリ察スルモ本件解決ハ益々其困難ノ度ヲ加ヘツツアリ要之紛議ヲ生スヘキ理由ノ第一因ハ滿鐵側ノ土地管理怠慢ニ起因シ第二因トシテ該土地管理怠慢ニ來^來シ東鐵農民カ多年ノ占有ニヨリ東鐵官憲ノ援助ヲ得テ滿鐵ノ管理權ヲ承認セサルニ在リ

境界石ハ中斷側ノ抗議スル所ニ依レハ他ノ境界石ノ如ク一見古
カラスト言フモ滿鐵側ハ右ハ大正五六年頃附屬地周圍ノ他ノ境
界石ト同時ニ測量ノ結果建設シタルモノナリト謂フ）ヲ標準ト
スル境界線上ヨリ一米内側ニ新排水溝ヲ築造セリ是カ爲舊溝（
舊溝ハ境界線ヨリ五米乃至二米半内側ニ在リ）外側ニ於テ耕作
ニ從事セル中斷農民ノ耕作地ヲ侵害スルコトナリ日支間ニ交
渉事件ヲ惹起シタルカ滿鐵側ハ新溝ハ境界線内側ニ築造シタル
モノナレハ非ハ反テ從來附屬地ヲ無斷使用セル中斷農民側ニ在
リト主張シ工事ヲ續行完成シタリ然レトモ滿鐵側ニテハ主張ハ
主張トシ從前通り中斷農民ニ新溝内ニアル耕地ヲ無償ニテ使用
セシムルコトニ譲歩シ以テ現在ニ及ヘリ

S 1.4.4.0 - 2

212

(ロ) 北五條通（東邊境界）問題

前記(イ)ト同年附屬地東端ニ在ル境界標石ヲ基準トシテ新ニ排水
溝工事ニ着手シタルカ此地ニモ亦境界石標ヨリ内側ニ小溝アリ
一見境界線ヲ形成スル如ク見受ラレ小溝ノ外側ニハ十數個ノ支
那民家アリ、從テ新溝ノ開掘ニ當リ前記同様中斷側ノ抗議ニ遭
ヒ同工事ヲ中止シ今日ニ至レルカ滿鐵側ハ將來舊小溝ヲ廢シ境
界線ニヨリ排水溝及道路ヲ築造スル豫定ナレハ本計畫遂行ニ當
リテハ相當紛糾ヲ免レサルヘシ

(ハ) 馬峰溝沿岸用地問題

附屬地西邊ヨリ更ニ遼河ニ連スル地域ハ舊露西亞帝政時代東支
鐵道カ遼河ノ水運ニ依ル出入貨物ヲ鐵嶺ニ吸收スル爲メ短距離

S 1.4.4.0 - 2

213

鐵道支線ヲ敷設スル目的ヲ以テ光緒二十八年十月中國人石立港ヨリ買收シ滿鐵ニ於テ之ヲ繼承シタルモノトス、然ルニ其後鐵道ノ發達ニ連レ遼河ノ水運ハ其價值ヲ減失シ問題ノ地點タル馬峰溝ハ一小村落ト化シタルヲ以テ滿鐵ハ同地ヲ邦人竹中某ニ貸下ケ竹中ハ更ニ之ヲ中國農民ニ轉租シ來リタルカ其後遼河ノ水流ハ西方ニ遷移シタル結果滿鐵カ竹中ニ貸付ケタル地域以上ニ數萬坪ノ淨剩地ヲ生スルニ至リ抑勸農民ハ此ノ淨剩地ノ所有權ノ歸屬不明ナルニ乘シ同地ニ耕作ヲ爲シ來レリ、元來竹中ハ新臺子ニ居住シ現地ニハ一回モ足ラ踏入ルルコトナク單ニ滿鐵ト支那人ノ間ニ介在シ地代ト小作料ノ差額ヲ着服シタルニ過キス滿鐵亦自己ノ所有地カ如何ニ處分セラレツツアルヤヲ顧念セス

(二) 馬峰溝街道土地問題

本件ニ關シテハ本年十月十五日附機密第二七〇號「鐵道附屬地境界問題ニ關スル件」(大臣宛機密第三八七號) 拙信ヲ以テ申進メ置ヤタル處鐵嶺驛北方鐵嶺西關ヨリ馬峰溝ニ至ル滿鐵用地内ニ大正十二年頃ヨリ支那人カ無斷ニテ家屋ヲ建設シ商賣ヲ營ミ居レリ當時滿鐵側ニテモ該土地カ差當リ必要ナカリシ爲之ヲ默過シ居リタル處其後鐵道工事ノ關係上同地ヲ土取場トシテ使用スル必要ヲ生シタル爲同地居住者ニ立退ヲ要求セリ是カ爲メ日支間ニ種々交渉ヲ生シタルカ何等徹底的解決ヲ見ス結局滿鐵側ニテハ同地居住者ヨリ貸付料金ヲ徵收シ向フ一ヶ年間(昭和六年舊曆八月十五日限り)ノ猶豫ヲ與フルコトトシ居住者ヨリ

右ニ關スル證書ヲ取付ケタルカ時恰モ中國側縣長ノ更迭アリ
旁々本件ハ今ノ處滿鐵側ノ希望通りニ進行シ居ルモ圓滿解決
ニ至ル迄ニハ相當ノ波瀾ヲ免レサルヘント思料セララル
三 係争中ノ境界ニ關スル民國側ノ主張

前記各項境界問題中附屬地南邊後八里庄ニ關シテハ中國側ハ該標石
カ他ノ標石ヨリ新シキモノトシ滿鐵カ勝手ニ埋造セルモノナレハ之
ヲ正當ナルモノトシテ認ムルヲ得ス北五條通り境界問題ニ關シテハ
同地點ハ露國ニ讓渡セシ土地ニ非スシテ現ニ民地トシテ中國側ノ
公款處ニ登録セラレアリ且地稅ヲモ徵收シ居レルヲ以テ滿鐵側ノ要
求ニ應シ難ク東北端ノ標石ハ爾來排水溝西側ニ在リシモノヲ滿鐵ニ
テ妄リニ現在地ニ移設セルモノナリト主張ス

S 1.4.4.0-2

216

馬峰溝沿岸用地問題ニ關シテハ滿鐵側ハ該浮利地ハ添付地トシテ
當然附屬地ニ編入セラルヘキモノト主張スルニ對シ中國側ハ該用
地ハ馬峰溝舊河流迄ハ鐵道用地トシテ認ムルモ河流西遷後ニ生シ
タル土地ハ當然中國ノ國土タルヘント主張ス

四 境界問題ニ對スル我方ノ對策

當面ノ對策トシテハ(第一)馬峰溝沿岸用地ハ遼陽工兵隊移駐脫
ト關聯シテ極力之ヲ我方ニ有利ナル様解決シタキ所存ナル處此點
ニ關シ前述ノ如ク東支鐵道ヨリノ引續膏類ニハ限界ニ關シ聊カ不
備ナル點アリ(第二)馬峰溝街道鐵道用地ノ住民立退方ニ關シテ
ハ極力滿鐵側ヲ支持スヘク(第三)後八里庄問題ニ於ケル耕作地
ノ取上(第四)北五條通問題ニ於ケル中國人民家ノ取拂ニ關シテ

S 1.4.4.0-2

217

ハ滿鐵ニ於テ多少ノ現金ヲ融出シ以テ土民ヲ慰撫スルカ解決ヲ促
進スルノ一策ナリト信ス

之ヲ要スルニ中國官民間ニ國權擁護、利權回收ノ氣運漸盛スル現
狀ニ在リテ滿洲ニ於ケル中國出先官憲ハ一方奉天中央政府ノ舉息
ヲ伺フニ汲々タルト他方外交協會ノ糾弾ヲ恐レ若シ一步ヲ譲ラハ
彼等ノ死活ニ直面スルヲ以テ境界問題ニ關スル交渉事件ノ如キ我
方ノ主張ニ對シ殊更ニ反動的態度ニ出ツル狀態ナルカ故ニ之ヲ一
地方的ニ解決セムトスルハ蓋シ百年ノ河清ヲ俟ツニ等シク、今當
面ノ事例ニ徴スルモ從來領事ヲ更フル毎ニ交渉ヲ新ニシタルカ係
争ハ依然トシテ解決ヲ見ス、仍テ小官トシテハ沿線各地ノ境界問
題ヲ一括シテ之ヲ奉天政府對貴總領事滿鐵本一社間ノ商議ニ移シ

各他ニ於ケル係争地ノ嚴重性ヲ考量シ大所高所ヨリ俯瞰シテ一地方
ニ於ケル讓歩ハ他地方ニ於テ之ヲ補填シ以テ一刀兩斷的ニ解決スル
ヲ得策ナリト思考ス

追テ本件附屬地圖面ハ滿鐵ヨリ入手次第送付スヘシ

陸軍省

第一課

昭和五年十二月六日

機密第五三五號

昭和五年十二月六日

在 鐵 嶺

領事館事務代理 石塚 邦

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

附屬地境界圖面送付ノ件

本月三日附機密第五二一號拙信附屬「附屬地境界圖面」一葉滿鐵

ヨリ送付越シタルニ付茲ニ追送ス



別紙添附

REEL No. A-0465

0169

アジア歴史資料センター

日本タイラライター株式会社選

也平面圖

千分之一



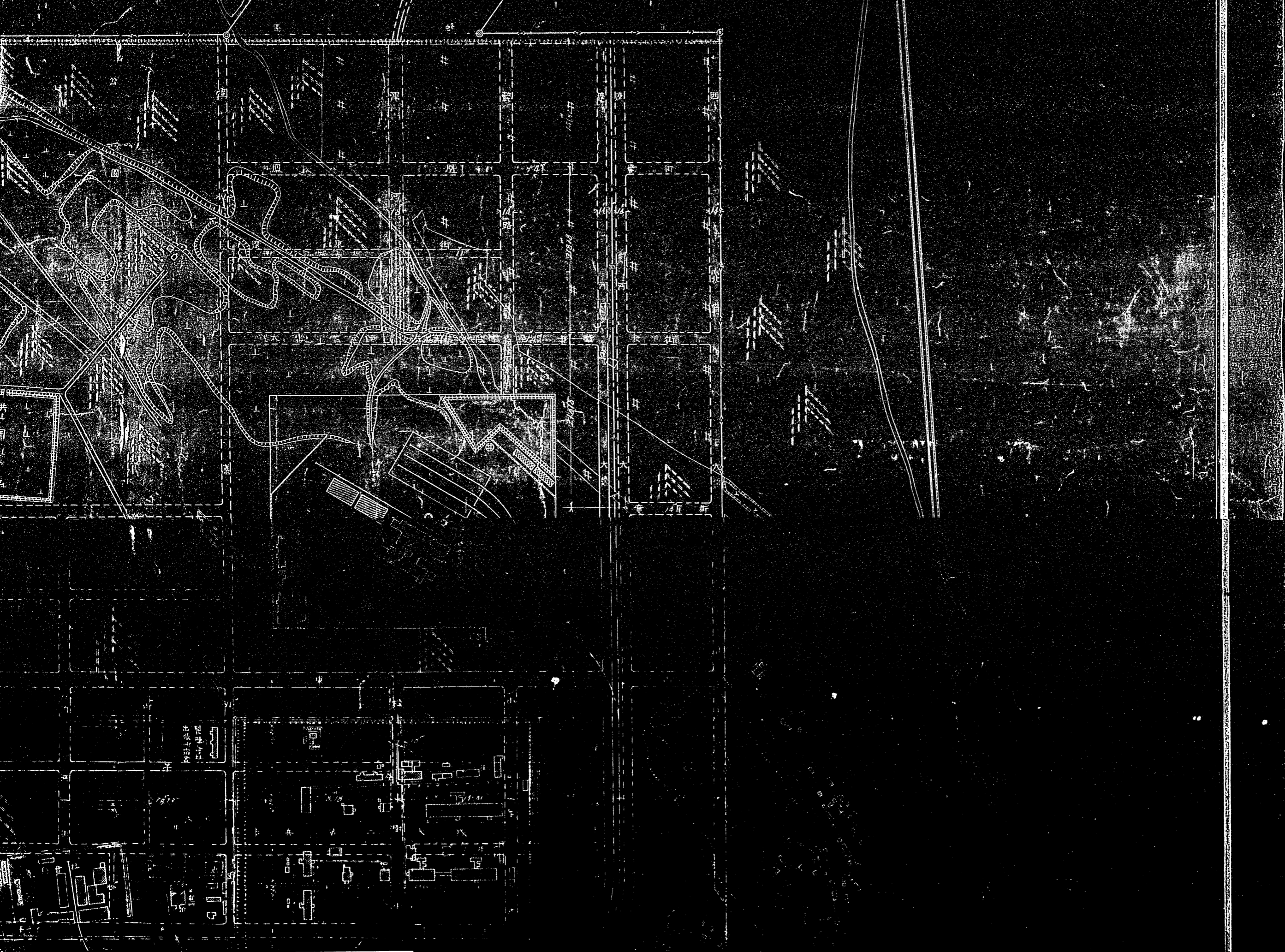
REEL No. A-0465

0 : 7 0

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0465



REEL No. A-0465

0 : 7 2

アジア歴史資料センター

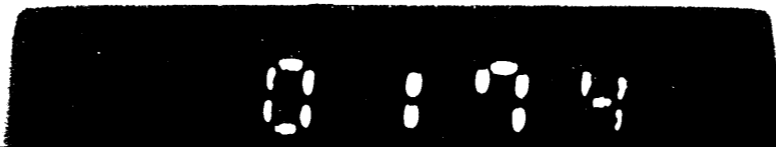
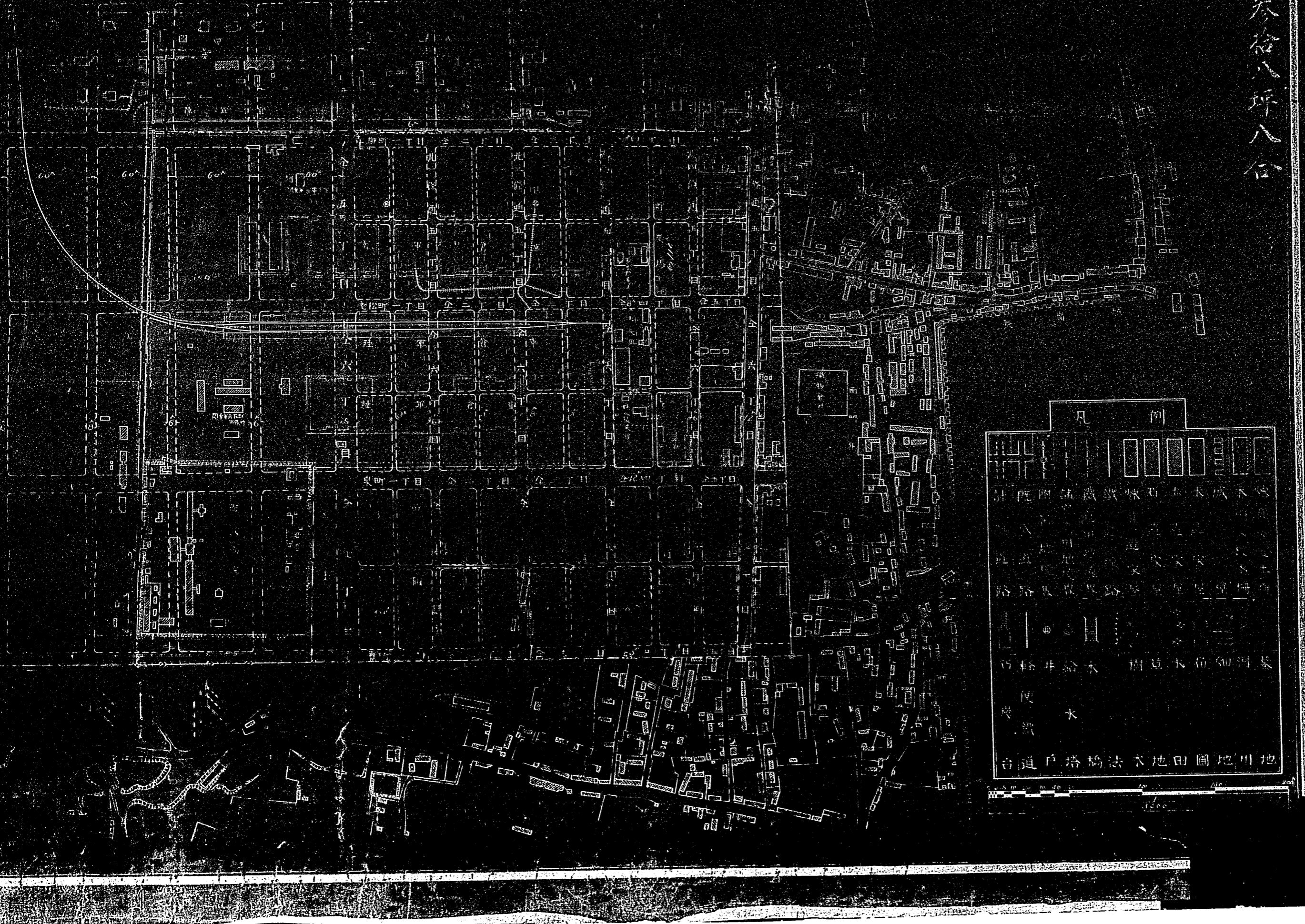


總面積 百八拾七萬九千百參拾八坪八分

REEL No. A-0465

0 : 7 3

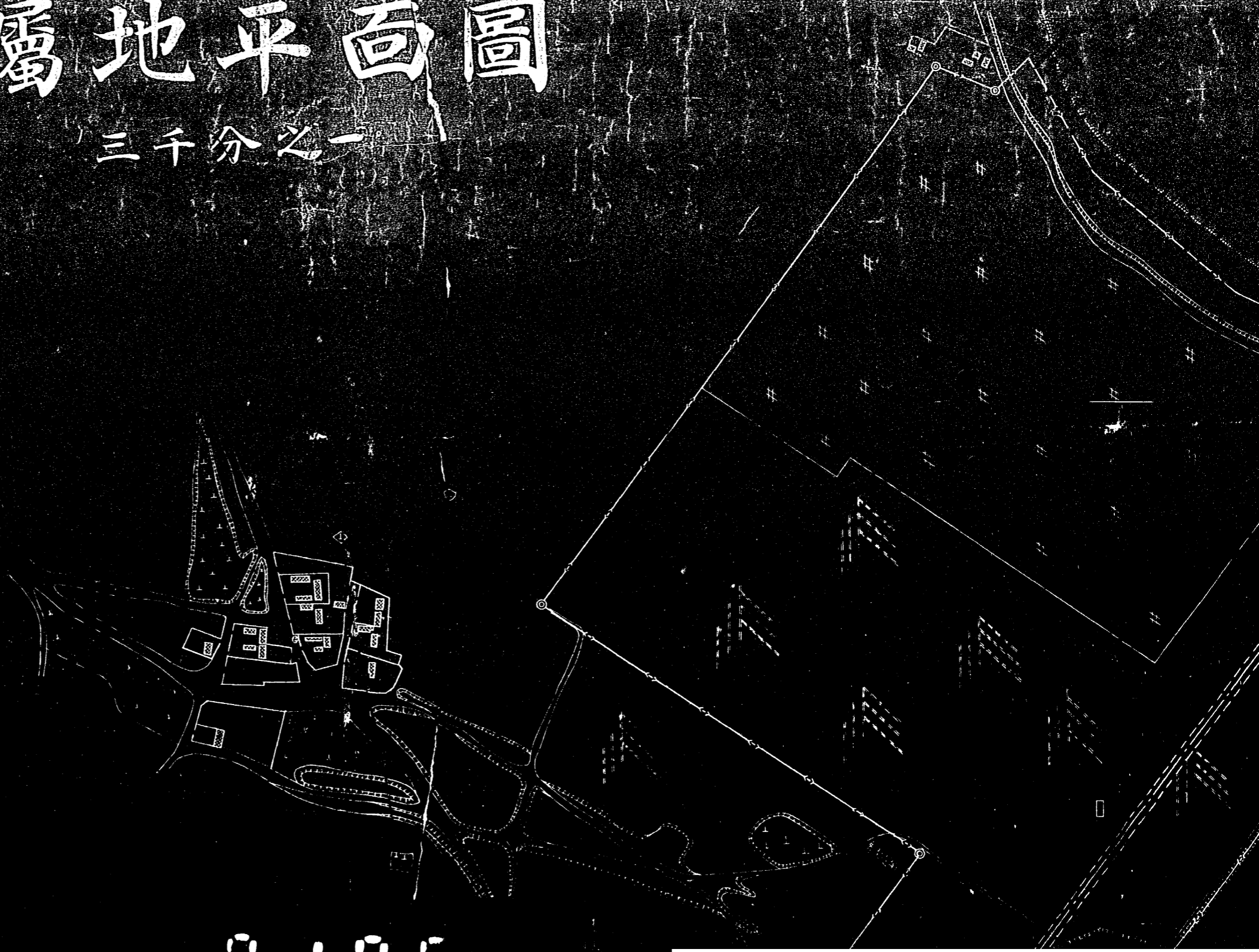
アジア歴史資料センター



日本タイラウイター株式会社選

鐵嶺附屬地平面圖

縮尺 三千分之一



REEL No. A-0465

0175

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0465

0 : 7 6

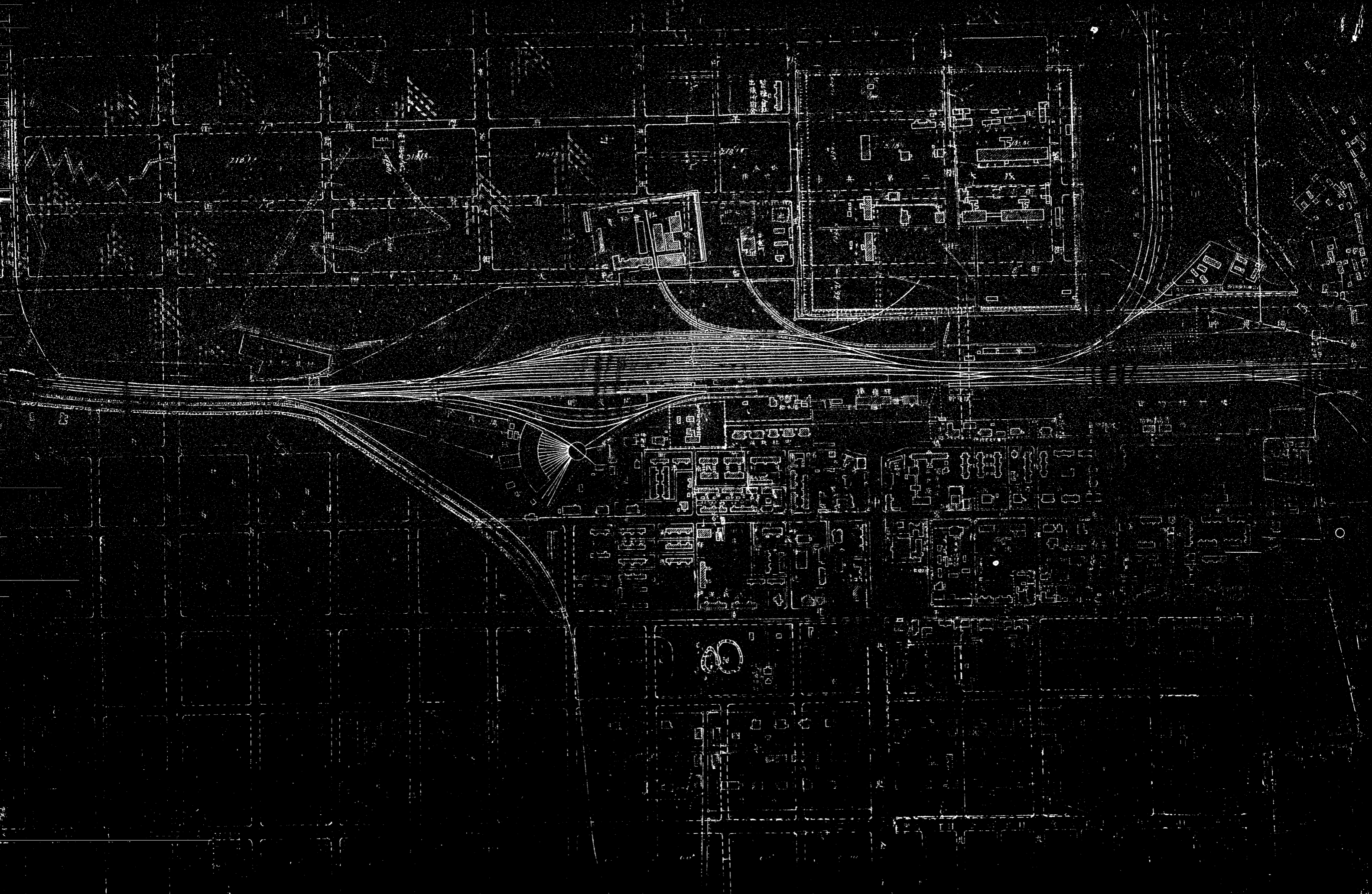
アジア歴史資料センター



REEL No. A-0465

0 : 7 7

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0465

0 : 7 8

アジア歴史資料センター



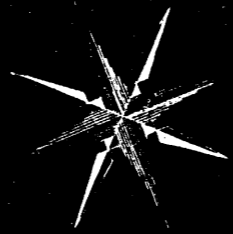
REEL No. A-0465



アジア歴史資料センター

鐵嶺附屬地平面圖

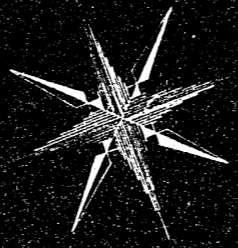
縮尺 三千分之一



REEL No. A-0465

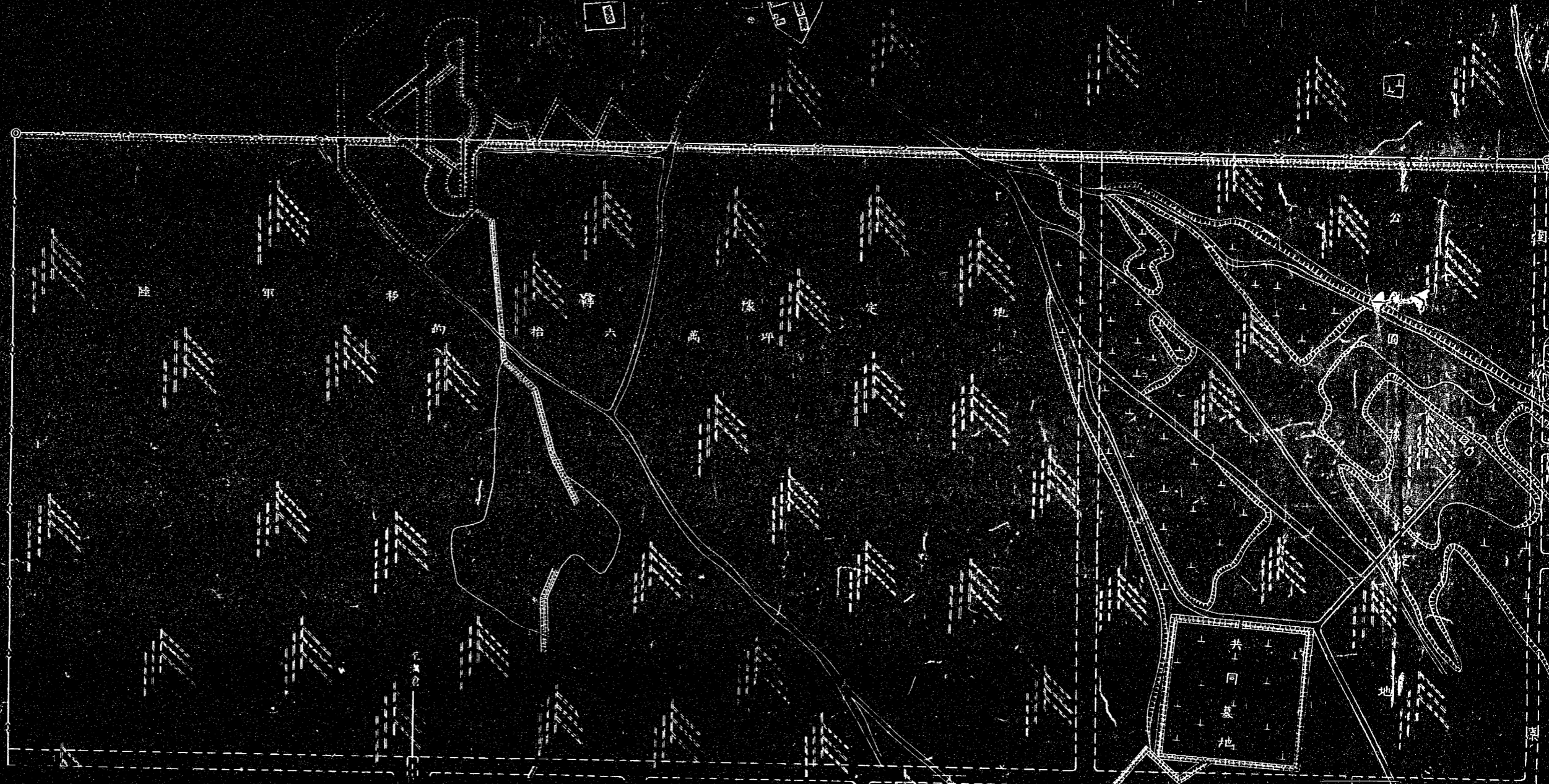
0 : 8 0

アジア歴史資料センター



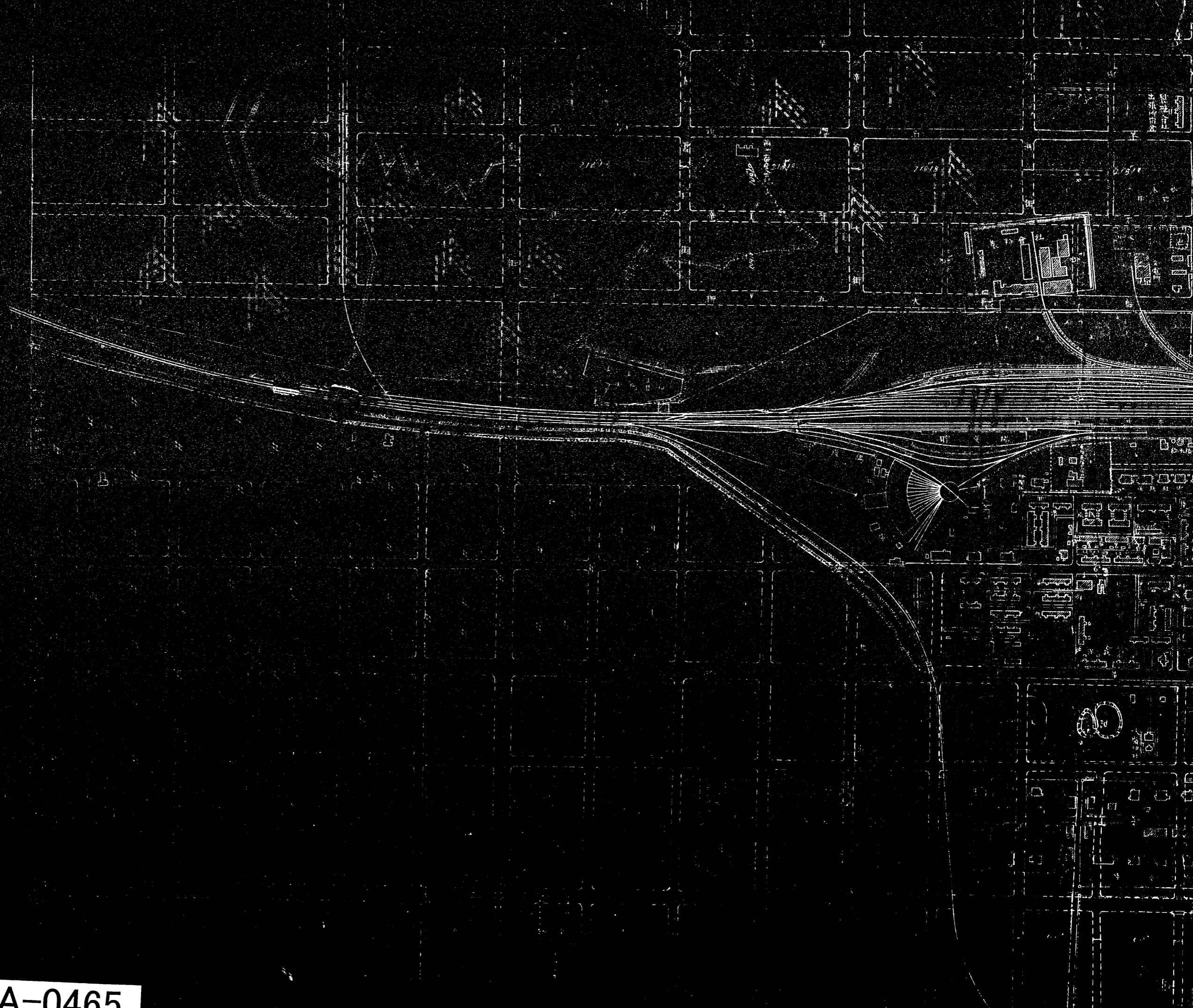
REEL No. A-0465

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0465



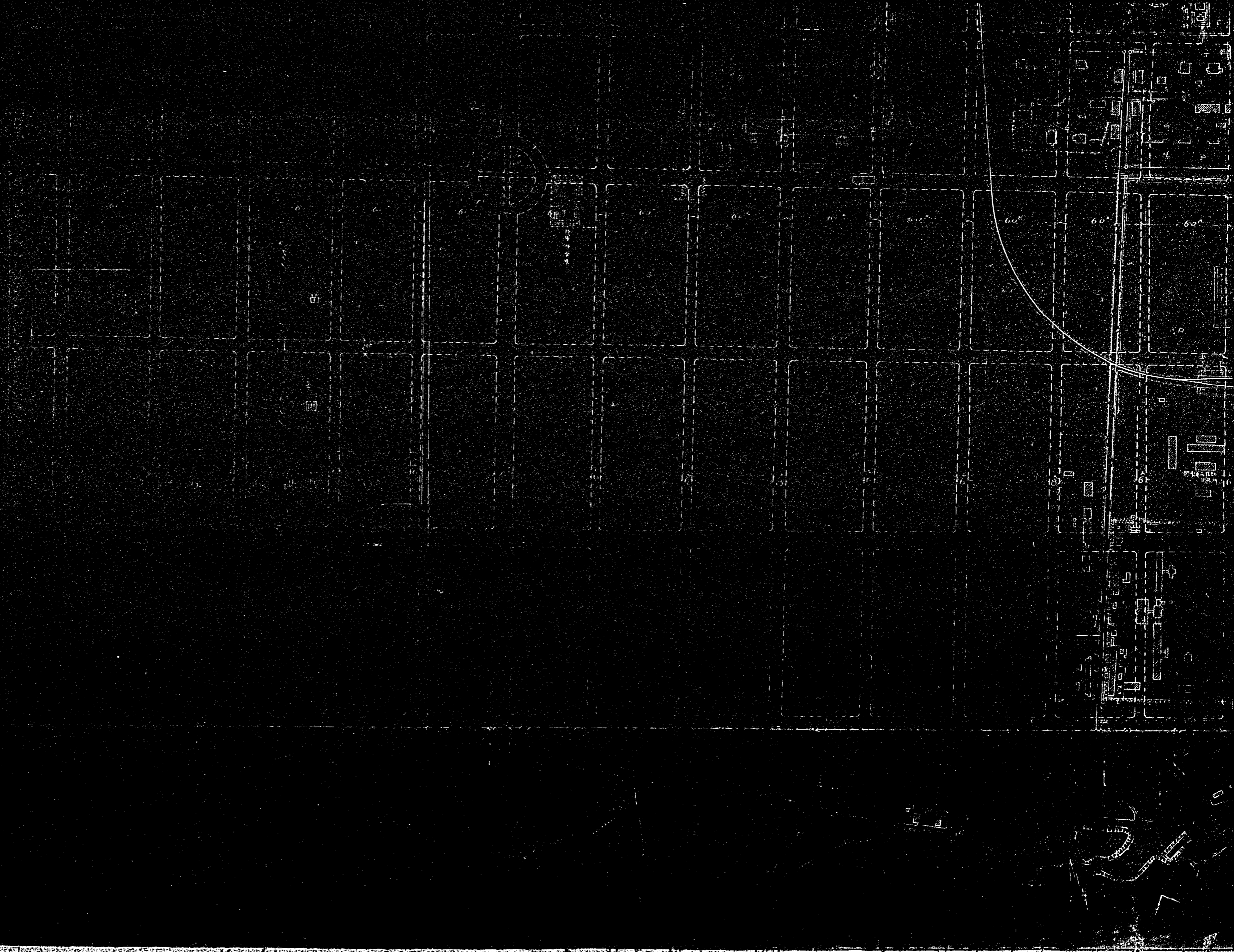


REEL No. A-0465

0 : 0 3

アジア歴史資料センター

昭和三年四月
大正十五年四月



REEL No. A-0465

0184

アジア歴史資料センター

滿洲沿線附屬地幅員ニ關スル件

大正十四年谷課長ガ米國大使館通譯官ニ説明スル所ニ依レバ滿鐵本線ニテハ鐵道線路ヲ狹ミ六十四米（三十五間強）安奉線ニテハ三十四米五〇（十九間弱）ナリ尙停車場乃至沿線市街地等ニテハ更ニ廣キ附屬地ヲ設ケアリ

東支鐵道南部支線讓渡問題ノ際（大正五年）ノ調査書ニハ「線路敷地ハ滿鐵ノ例ニ依レバ幅平均二十「サージエン」即約百四十尺（二十三間餘）ナリ」云々トアリ

關東都督府矢野翻譯官ノ復命（大正五年七月）ニ依レバ東支線讓受區域線路幅員ハ三十二露間（我三十七間強）ナル趣ナリ

昭和四年一月滿鐵東京支社ニ電話ニテ問合セタル所ニ依レバ本線

附屬地

外務省

ニ於テハ普通三十四間狹キ個所ハ二十二間廣キ個所ハ二百三十餘間ニ及ヒ又安奉支線ニ於テハ二十一間乃至九間ナリ
以上何レモ其ノ根據明カナラズ

外務省